

配合飼料製造工場における食品残さ等の利用実態調査結果の概要

1 調査目的

H17年度食品残さの飼料化推進に向けた行動計画に則し、食品残さ等の飼料利用の実態を把握するため、配合飼料製造工場に対して悉皆調査を実施。

2 調査対象

(社)配合飼料供給安定機構が毎月、飼料原料情報を収集する配合飼料製造工場(140工場)を対象に実施。回答があつた工場数は、116工場(82.9%)。

3 調査項目

食品製造副産物及び食品残さ加工飼料の利用状況
食品残さを利用する場合に考えられる問題点 等

4 調査結果

食品製造副産物を利用している工場は97工場(83.6%)、利用していない工場は19工場(16.4%)

利用品目

雑穀ぬか、麦ぬか、大豆皮、おから、豆腐かす、でん粉かす、しょう油かす、ビールかす、酒かす、焼酎かす、ウイスキーかす、あまに油かす、ごま油かす、パンくず、菓子くず、みかん皮、みかんジュース搾りかす、りんごジュース搾りかす、製麺くず、あわぬか、カカオ豆殻、ふくず、豆乳かす(23品目)

上位6品目の使用状況

原料名	使用状況		対象家畜等				委託されて使用
	工場数	使用量 トン/16年度	豚	鶏	牛	養魚	
菓子くず	46	54,093	45	3			2
麦ぬか	27	36,188	6	5	22		3
ごま油かす	33	25,087	5	21	11	1	5
大豆皮	40	17,635	2	1	38		6
パンくず	30	13,621	29			2	2
ビールかす	28	11,626			28		4
計		158,250	87	30	99	3	22

- ・ 利用されている食品製造副産物の総使用量は、97工場で183,532トン/16年度
- ・ 菓子くず、麦ぬか、ごま油かす、大豆皮、パンくず、ビールかすで158,250トン(86.2%)
- ・ 牛では、大豆皮、ビールかす、麦ぬか、豚では、菓子くず、パンくず、鶏では、ごま油かすを主に利用

エコフィードの利用状況

- ・ エコフィードを配合飼料原料として利用しているのは2工場(1.7%)
- ・ 使用量は1,396トンで、給与家畜は鶏。

質問事項に対する回答

「食品残さを利用する場合に考えられる問題点」に対して、回答のあった工場は65工場。回答の多かった項目は、

- ・ 品質の安定性・安全性と一定量の確保が可能か(26工場)
- ・ コーンや大豆油かすと比較して安い価格で供給できるか(11工場)
- ・ 栄養成分の安定化、明確化ができるか(11工場)
- ・ 動物性たん白質の混入のおそれがないか(10工場)
- ・ トレーサビリティが可能か(9工場)
- ・ 安定的な供給ができるか(8工場)
- ・ 水分含有率の高いものが多く、乾燥させるのに経費がかかる(7工場)

(参考)

食品製造副産物の利用状況

原料名	使用量		対象家畜(複数回答を含む)				委託されて使用
	工場数	トン/16年度	豚	鶏	牛	養魚	
雑穀ぬか	1	3			1		
麦ぬか	27	36,188	6	5	22		3
大豆皮	40	17,635	2	1	38		6
おから	14	4,617	3	2	11		4
豆腐かす	9	1,164			8	1	1
でん粉かす	5	3,792			5		
しょう油かす	8	4,061		2	6	1	
ビールかす	28	11,626			28		4
酒かす	2	148	1	1	1		1
焼酎かす	5	2,337	2		3		1
ウイスキーかす	0						
あまに油かす	22	5,649	1	2	20		3
ごま油かす	33	25,087	5	21	11	1	5
パンくず	30	13,621	29			2	2
菓子くず	46	54,093	45	3			2
みかん皮	0						
みかんジュース搾りかす	4	625	1		3		
りんごジュース搾りかす	2	8			2		
製麺くず	4	1,900	4	2			
あわぬか	2	333			2		1
カカオ豆殻	1	447			1		
ふくず	1	107	1				
豆乳かす	1	91				1	
合計	285	183,532	100	39	162	6	33